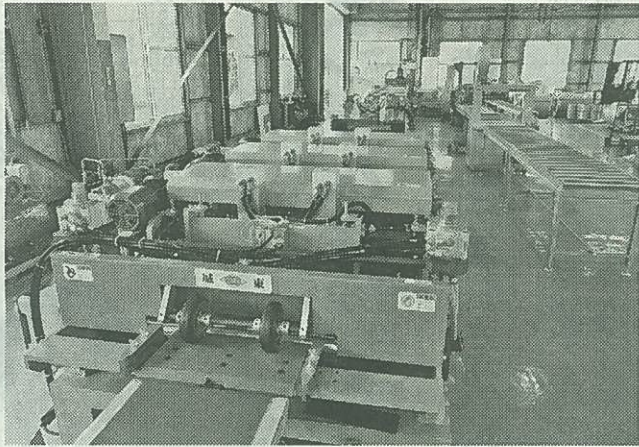


# 中部版

名古屋支社  
〒464-0074  
名古屋市千種区仲田2-15-12  
ワークビル3階  
電話・052(735)6556  
FAX・052(735)6557



導入した成形ライン

## 植松

### 定尺横葺きの 金属屋根

## 新製品を販売

### 専用の成形ライン新設

### 省施工のニーズ対応強化

植松の新製品「UMルーフ1」のカタログ



静岡県鉄鋼二次製品流通大手の植松（本社・静岡県沼津市、社長・植松孝康氏）は、金属屋根の潜在需要開拓を強化する。戦略製品として、今年より定尺横葺き金属屋根「UMルーフ1」を初めて、現場施工性の

静岡県鉄鋼二次製品流通大手の植松（本社・静岡県沼津市、社長・植松孝康氏）は、金属屋根の潜在需要開拓を強化する。戦略製品として、今年より定尺横葺き金属屋根「UMルーフ1」を初めて、現場施工性の

東海CC工業会 6月のコイル鋼板流通調査 入出荷とも大幅増

東海コイルセンター工業会（会長・小川通治、小川商店社長）がまとめた、6月のコイル鋼板流通調査によれば、鋼板流通調査によれば、地震や事故によるマイナス要因からの挽回や稼働日数増などにより、入出荷は自販・

東海地区のコイル・鋼板流通調査 (2016年6月末、単位：トン、%)

	前月比	増減
社内	107,874	11.7
社外	110,660	14.9
合計	126,505	12.1
自入	277,337	19.6
社受	280,507	24.7
合計	228,120	11.3
自入	385,211	17.3
社受	391,167	21.8

トヨタ自動車などが1〜3月期は逆に高い生産レベルになると見込まれ、徐々に向上の見通しになってきた。価格面でも大きな変化は見込まれず、コイルセンターや鋼管扱い筋、各種加工段階では人手不足の問題は継続するが、仕事量や採算面では大きな変動のない状況が続くようだ。

## 東海地区の車向け鋼材

東海地区の車向け鋼材の生産を継続するが、10月ローダウンする。12月までは熊本地震などの挽回生産は日当たり1万3千台弱の販売台数も増やしていく計画なども予定されているため、生産レベルは現状を底に上向いてくる可能性が指摘される。

# 来年1月以降、回復顕著に

## トヨタ、1万4000台(日当)の高水準

もほぼ完了すると見て、同ペースを続ける。これは当面、1万3千台程度の水準とす初の年間計画に示された生産計画。当初生産を増やす産レベルへと戻す格好になる。パジェロなどに増産計画があるが、トヨタ関連の仕事が中心の扱い筋では10〜12月期にスローダウンするも繁忙期が続く。年

このため、東海地区コイルセンターなどは比較的堅調な生産レベルを維持する可能性がある。店売り主力の扱い筋では格差もみられそうだが、トヨタ関連の仕事が中心の扱い筋では10〜12月期にスローダウンするも繁忙期が続く。



挨拶する松下社長

品は端部の特殊加工により、継ぎ手を用いない重ね葺き工法のため、部材点数、コストの削減と工期短縮に寄与できる。新製品販売に伴い導入した成型ラインは、エンボス・レベラー加工機、隅切切断装置、アヤメ折り装置、ラミネーター（断熱材接着装置）、梱包機などが付随したもので、エンボス加工から成形、断熱材の裏貼りまで自動生産する。同時に新製品専用の板金役物（軒先唐草）の成形機も新設した。同社は住宅、非住宅向けに鉄鋼二次製品の販売や成形加工を手掛けている。静岡県東部地区メーンに、静岡県中部および神奈川県知、岐阜西部、山梨県南部を主とする営業エリアとして、グループ会社として、屋根・外装建材施工、住設機器販売・設置などを担う植松建興（本社は、社長とも同じ）を擁しており、昨年より個人向け住宅リフォーム事業に参入。金属屋根製品の拡販に一層注力している。